

鳥取県と連携協定

県内への就職を促進



協定を締結し、固く握手を交わす平井知事、佐々木学長、森谷理事長(右から)

本学は3月20日、鳥取県・ふるさと鳥取県定住機構と就職支援のための連携協定を結んだ。学生の鳥取県内への就職の促進を目的に▽学生への鳥取県内の企業情報や生活情報の周知▽就職相談会の開催▽保護者への情報提供―などを行う。2018年度は学内での鳥取県出前講義、県内企業の若手社員との交流会などを予定している。同機構は県から就職支援事業を委託されており、実施主体として各事

業を推進する。協定式は神田キャンパスで行われ、平井伸治鳥取県知事、森谷邦彦同機構理事長と佐々木重人学長が協定書を交わした。佐々木学長は「鳥取県出身の学生がふるさとに

組織間協定を更新

社会科学研がハノイ訪問



社会科学研究所と東北アジア研究所のメンバー

社会科学研究所(宮崎晃臣所長)は2月にベトナムを訪問し、協定満了となるベトナム社会科学研究所(フナム・タイ所長、ハノイ市)との国際交流組

織間協定の更新調印を行い、その後日系企業3社を訪問。企業訪問では、ベトナムの経済社会の姿を目的の当たりとした。更新調印式は5日、同研究所で行われた。2012年の協定締結以来、両者は国際シンポジウム、定例研究会の開催を重ねており、研究者の交流なども進んでいるが、今後

も人事交流や研究交流を活発に行うことを確認した。同日午後から企業訪問を実施、イオンモールロソビエン、三進ベトナム、四国電線ベトナムの3社を訪ね、聞き取り調査を行った。ベトナムにおいて3号店となるイオンモールロソビエンは、郊外立地でありながら、「まちづくり」の一環を担うスーパーとして地域と一つとなろうとしている様子を知ることができた。

三進ベトナムは、1997年に社研がベトナムを初訪問以来、訪問先で最後に、ハナム省工業団地の中の一企業で11年に設立された四国電線ベトナムを訪ね、工場での仲介や案内、通訳などを依頼している旅行業者。代表の新妻東一氏がこれからのベトナムの勢いを象徴しているようであった。

ベトナム×日本間のさまざまなレベルでのつながりを実感した。研究所訪問してきたのかなどを振り返ってもらった。最後に、ハナム省工業団地の中の一企業で11年に設立された四国電線ベトナムを訪ね、工場での仲介や案内、通訳などを依頼している旅行業者。代表の新妻東一氏がこれからのベトナムの勢いを象徴しているようであった。

自治体などが報告や提言を行った。佐藤准教授は、首都直下地震が発生した場合に自治体が用意できる仮設住宅や賃貸住宅について、地震被害などを考慮して綿密に試算。火事の被害が少ない夏の昼間に発生した場合でも、都内23区のうち12区で約13万世帯の住まいが不足し、仮住まい広域化の可能性があると指摘。「仮設住宅をどこに建てられるのか、空いている賃貸住宅がどのくらいあるのか。こうした情報を地域の方と共有して、自分のこととして対応を考える必要がある」と訴えた。

青森県知事 三村申吾



青森県と専修大学として、輝いて暮らしている。2016年12月に、UIJターン就職促進に関する連携協定を締結しました。

青森県は夢をかなえるための挑戦を応援します

青森県では、若者の県内定着が大きな課題となっています。この課題の克服に向けて、地域に魅力ある仕事をつくり、多た「立体的観光」による国内

16年度に創業支援拠点を所内の「あおもりUターン就職支援センター」への無料職業相談窓口開設や、WEB上で企業情報やインターシップ情報を紹介する「UIJターン就職支援サイト」の運営も行っていきます。就職活動などで青森県を訪れる際の交通費の一部を助成する制度もありますので、ぜひご活用ください。

青森県には、皆さんの夢をかなえるための挑戦を受け入れる環境があります。皆さんの挑戦に寄り添い、多様な働き方を応援する人がいます。専修大学の皆さんが、青森県で暮らし、夢を現されることを期待しています。

【あおもりUIJターン就職支援サイト】 <http://aomori-job.jp/>
【あおもりUターン就職支援センター】 <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/soumu/a-tokyo/aomoriuta-nnsyuushokusiennsennta-00.html>

就職課から

4年次生へ 卒業後も就職課を利用できます。就職課窓口で登録手続きをすることで、S-netも継続利用できますので、諦めずに就職活動が続けましょう。

3年次生へ 就職活動が本番を迎えました。例年に比べ、個別の会社説明会開催やエントリーシート提出期限が早くなっている傾向がうかがえます。チャンスを逃さないために先手を打つことを意識してください。

3月26日(月)、27日(火)には、生田キャンパス3号館7階に約120社が集まり、合同企業説明会を開催します。ぜひ「知らない」企業の話聞いてみてください。

い。なぜなら業界内では有名であったり、高いシニアを持っていたりする場合があります。また、学内の説明会に来校する企業は、OB・OGが長く働いていたり、専修大生を採用したいと強く考えていたりします。一社でも多く説明を聞き、内定のチャンスを広げてください。

価値観が多様化した今日、世代間で受け止め方が異なるだけではない。同時に、自分と異なる考え方を他者の言動に耳を傾ける寛容な心持ちではないか、と感じる言動の受け止め方に違いがあります。

「私なら、当たり前のようですが、まずは、自分が他人から受けたくないことは他人にもしないという論語」

思いやりと寛容

誰しも、他人の言動によって不快に感じた経験が少なからずあると思います。何を不快に感じるのか、価値観や時代の風潮によって移ろう対象と、変わらぬ対象があります。変わらぬ対象は、時代により左右されることがなく、大多数の人が不快と感じる言動が周知されているので、あらかじめ回避することが可能です。

また、同じ状況で同じ言動であっても、信頼関係がない人からでは、不快と感じてしまうことがあります。ね。さらに、言葉だけでなく表情や身ぶりを交えた対面の会話に比べ、スマホのような文字に頼る場合、相互の受け止め方にズレが生じてしまうことがあります。

このような現代社会、ハラスメントの多い学修環境を作るには、どのような振る舞いなのでしょう。



対策室員・小林 昭裕